

## そり遊び・雪遊び

そりで斜面を滑る楽しさを感じ、雪と触れ合うことで自然と親しむことができます。雪が多いときは、雪の中に入ったり、大きな雪だるまを作ったりするなど、遊び方は無限大です。北極圏やシベリアなどの寒冷地では、雪や氷の上を効率的に移動するために古くからソリが使われてきたそうですよ！

※入所後の打合せは行いませんが、確認表の事前提出をお願いします。



### 活動のねらい

○日常の生活環境では体験することのない冬の厳しい自然の中に直接身を置くことにより、改めて自然の多様性とその営みを認識し、自然と人間の関わりについて思索し、自然に対する理解を深める。

一斉実施可能人数	40人	活動季節・条件	積雪期
所要時間	1時間～3時間	実施場所	交流の家敷地内(つどいの広場を除く。)
主な対象	幼児～		
指導について	事前指導では、用具の使い方、コースの概要、片付け場所等を交流の家職員が説明します。説明後は自主活動です。		

### 活動の概略

冬季における雪中の活動プログラムであり、敷地内のそり遊びエリアやその周辺で活動します。当日は、交流の家職員による事前指導(活動エリア、使用する用具等)の後、団体の担当者の指示に従って行動します。活動終了後は、用具等を元の場所に返納してください。

### 準備物

#### 交流の家が貸し出しできる用具・材料

そり、雪玉製造機、バケツ、スコップ、ミニショベル、救急バック(原則1団体に1個)

#### 利用者や団体が準備する用具・材料

防寒着、靴(ゴム長靴など水が浸透しにくいもの)、防寒帽子、水筒  
防寒手袋(軍手等綿製品は不可。厚手の毛糸が好ましいが、ないときは薄手のものを二つ重ねて着用。)

### 交流の家(食堂)で購入できる物

特にありません。

### 当日の動き

- ①用具の準備 交流の家職員と一緒に準備をします。
- ②事前指導 活動エリア、使用する道具、注意事項などを交流の家職員が指導します。
- ③活動 団体の指導者の下、活動を行います。
- ④振り返り 団体の指導者の下、活動の振り返りを行います。
- ⑤用具の片づけ 貸出用具の返却をお願いします。

### 安全対策・環境への留意点

そり遊びでは、事前に「そりの破損、ひび割れはないか。」「雪の量は十分か。土、草は出ていないか。」「固く氷になっている部分はないか。」「そり遊びエリアとその周辺に危険(落雪、転倒)はないか。」をしっかりと確認してください。

#### ○安全指導(セーフティーク)

以下の内容をしっかり守って活動してください。

- 服装(防寒用具なども含む。)はきちんと整っていますか? ※手袋、帽子は必須です。
- 準備運動をきちんと行いましょう。
- 小さい子が2人で乗る場合は、後ろに乗る人の股の間に、前の人が座るように入ります。
- スタートの指示があってからすべりましょう。(同時スタート、連続スタート、連結滑り、立ち乗りは、危険なのでやめてください。)
- 活動中は、コースを横切らないでください。滑るところと登るところをしっかりと確認しましょう。